

「夏休み工作教室でコミュニティ」

～ 管理組合・自治会が夏休みの宿題のお手伝い ～

プラウドシティ柏団地管理組合自治会 兼本 信介/大滝 純志

1. プラウドシティ柏の自治会

(1) マンションの概要

所在地 千葉県柏市向原町
竣工年月 2005年(平成17年)3月
棟・戸数 2棟(団地) 345戸
役員 14名(理事13名 監事1名) 1年任期の輪番制(一斉交代)
管理形態 管理会社へ全面委託

(2) 自治会発足の経緯と現状

2005年3月 入居開始

JRが社宅の敷地約1/3を売却したところに建ったマンション
向原町には、自治会がJR社宅とその他の住宅(戸建て)の2つがあった
社宅自治会は、売却した(社宅じゃなくなった)ところは対象外と主張
戸建住宅自治会は、100戸に満たない規模で大規模マンションの加入を拒否
⇒ 自治会がなくても困ることがなく、自治会は作らないまま放置

2011年5月 3月に発生した東日本大震災で危惧を覚え、同年の管理組合の通常総会で防災委員会の設置を決議

2011年9月 防災委員会発足(メンバー:5名、理事3名・応募者2名)

発足時の目的は防災マニュアル作成だったが、

- ・ 防災マニュアル作成はとても難しい
- ・ 災害発生時に組織的に活動するための人材を確保出来ていない
- ・ 行政からの情報提供ルート 等の課題に直面

⇒ 行政との関係づくり、マンション内コミュニティ形成のために自治会発足を検討

※ 自治会設立を検討中、柏市より団地からの民生委員選出要望もあった

2012年5月 管理組合通常総会において、自治会発足を決議

2012年9月 自治会設立準備開始(メンバー:理事5名・応募者2名)

行政への申請方法調査、自治会規約作成、活動・資金計画 等々を検討

2013年5月 管理組合通常総会に引き続き、自治会設立総会を開催して、柏市に設立を申請

- ・ 自治会規約に、団地居住者を会員と規定
- ・ 収入は柏市からの交付金と資源ゴミ回収費(会員からの徴収なし)約35万円/年

- ・管理組合とは別会計（以後も、管理組合通常総会の後に自治会総会を開催）
- ・管理組合副理事長 2 名が、自治会の会長と副会長になる役員決め不文律をつくる
⇒ 地域向けに自治体の体は整えたが、内情は管理組合の一部

2. マンションで工作教室が始めようと思った背景

(1) 兼本さんの自治会活動

- ・「みんなで楽しく過ごせるマンションライフ」への期待を持って、自治会に応募枠の役員として参加
- ・管理組合に付属した自治会で、世間一般で行われている自治会活動がなかったことから、シニアクラブの立ち上げにまず提案して取り組んだ
- ・シニア中心のコミュニティ活性化を考えてスタートしたものの、シニア層が意外と少なかったため、現在は年齢にこだわらず声掛けしてメンバーを集めた「イベントクラブ」に変化
- ・イベントクラブでは最初に囲碁・将棋・歩こう会・草刈り・交通指導・カラオケ等の開催を検討
- ・現在実施されているイベントは、
 - ① マンション内の草刈り（参加者 8～15 名）
 - ② おしゃべり会（月 1 度、ご婦人方 8 名～）
 - ③ 通学路での交通指導（週 1 回、3 名）
 - ④ 工作教室（小学生とその父兄、約 20 名） 等
- ・シニアが集まってワイワイと楽しめるイベントの定着を目指しており、まだ道半ば

(2) 兼本さんが工作教室を始めたきっかけ

- ・高齢者宅の補修や草刈りを行うボランティア団体「D I Oクラブ太助」（柏市社会福祉協議会登録団体のサークル）に参加して、様々な工具に触れる → 工作のノウハウを取得
- ・その他の団体にも参加することで多方面への人脈が出来てきて、市内児童センターやさわやかちば県民プラザが主催する工作イベント（ものづくりワークショップ）などに参加している

(3) 自身が住むマンションの子供たち向けに始めたきっかけ

- ・マンションにキッズルームがあり、そこにいつも子供が集まっているのを見て、工作教室を開催することを思いついた
- ・児童センターやさわやかちば県民プラザでの工作教室に参加した子供や高齢者たちが楽しんでくれたことから、マンションの子供たちにも楽しんでほしいと思った

3. 工作教室の企画・運営上での苦労や工夫

(1) 道具や設備の準備

- ・電動のこぎり、ディスクグラインダー、電動ドリル、電動サンダー、クランプなどの工具を、自分で買いそろえていった
- ・他の団体の活動（NPO 柏市民の会）に参加して得た収入（月に 1～2 万円）で必要な工具を少しずつ買いそろえた

(2) 材料の確保方法

- ・ 木材の収集方法は、
 - ① D I Oクラブ太助の庭仕事で出た木材を持ち帰る
 - ② 台風の後には森や林で落ちている枝を拾う
 - ③ 森や林を管理しているN P O仲間からもらう、知合いから連絡をもらう 等々今後、市の公園課へアプローチもしてみたい
- ・ 木の実（どんぐりや栃の実など）は、櫻又さん（相棒）が集めてくれる（櫻又さんは、柏市内のどこに木の実があるか、いつ取れるかを熟知している）
 - ※ 櫻又さんは大工さんの子息で工作にも詳しく、工具も色々と持っている頼りになる相棒
- ・ 自分でも、日立サッカー場の周りや隣の東葛飾高校でどんぐりや松ぼっくりを拾っている
- ・ 自然のものが多いため、衛生管理には最大の注意を払っている（木の実の煮沸消毒、アルコール消毒等々）

(3) 自治会行事とするまで

- ・ 最初に提案したときは「子供がけがをしたら…」とか自治会の責任問題を恐れての事なかれ主義との闘い・・・もちろん、これでもめ事になることは不本意なので、もっぱら下手で押し通す
- ・ その甲斐あって、以下条件付きで開催することとなった
 - ① 子供には刃物を触らせない
 - ② 工作教室への予算はゼロ（場所はキッズルームを無償提供が、材料や機材は兼本さんが用意）最近、イベントクラブへの活動補助金として 1~2 万円/年の枠をもらい、必要な材料を購入できるようになった

(4) 集客方法

- ・ 2017年12月27日に初回工作教室（干支の人形作り）を開催・・・全戸に開催案内を配布したが、叶わず、掲示板のみ（マンション内2ヶ所）の告知
- ・ 今は、掲示板告知に加え、全戸配布の「管理組合だより」でも告知している
- ・ 今年度からはエレベータ内へのお知らせ掲示を開始し、夏休み工作教室開催案内も掲示

【各回の参加者数】

第1回目	2017年12月27日	干支の人形作り	子供7人	父兄4名
第2回目	2018年8月23日	夏休み工作会	子供16人	父兄4人
第3回目	2018年12月16日	干支人形・正月飾り作り	子供8人	父兄4人
第4回目	2019年4月1日	春休み工作会	子供16人	父兄5人
第5回目	2019年8月1日	夏休み工作教室	子供17人	父兄5人

(5) 運営上の工夫

- ・ 子供たちが求める材料の切り出しや加工にその場に対応するため、工具を扱える人が複数必要・・・櫻又さんの参加、DIOクラブから1名応援が来てもらったりして確保

- ・ 何を作るか決めかねる子供のために、作品集の写真を用意している
 - ・ 大量の材料などの保管場所が必要・・・自治会行事とすることで、共用部分の倉庫に置ける
- ※工具は自宅に保管

4. 工作教室中の様子等

(1) 参加した子供

- ・ 興味を持って参加してきているので、夢中になり、生き生きと取り組んでいる
- ・ 作品を持ち帰るときのうれしそうな顔に、毎回、癒される

(2) 付添いの父兄

- ・ お母さんの中には、ドリルが得意という方もおられたり、子供と一緒に作り方を考えたり、自分が夢中になって作ったりと、付き添い以上に楽しんでいらっしゃいます
- ・ 過去に参加された父兄から、挨拶されたり、大人が参加する企画の催促があったりもする

5. 今後の野望

(1) マンション内での今後の展開

- ・ マンション内での様々な活動をしている人と認知されてきたようで、熟年のご婦人から大人も参加できる企画はないのかと声をかけられたり挨拶されたりするようになり、嬉しい限り
- ⇒大人のための工作教室を企画していきたい

(2) 他の団体からのアプローチに対して

- ・ 市内児童センターやさわやかちば県民プラザ「ものづくりワークショップ」からの依頼は、材料と日程が合えば積極的に参加している
 - ・ 県民プラザで、若いご婦人 2 人が飛入り参加して高齢者介護に利用できないかと体験してみたと言われたことがあった・・・必要な時は応援しますと伝えた
 - ・ ものづくりワークショップでは、高齢の女性方の参加もあり工作をととても楽しんでいる
- ⇒子供たちへの企画とともに、高齢者参加型（定期開催）の企画にも挑戦していきたい

子供たちや、高齢者、お父さん、お母さんも参加できる木の枝・木の実を使った工作会を開催していくことで、みんなのコミュニケーション向上と楽しみにつながれば最高ですね！